

平成23年度 滋賀県立高等学校入学者選抜に関するまとめ

平成23年度滋賀県立高等学校入学者選抜において、推薦選抜実施校は、全日制課程のみ36校43学科、特色選抜実施校は、12校15学科であった。

推薦選抜、特色選抜あわせて5,969人が出願し、3,113人が入学許可予定者となった。

一般選抜は、学力検査の受検倍率が1.09倍であった。また、出願変更率は7.0%であった。

以下 () は前年度

<推薦選抜>

1 出願状況

募集枠 2,374人
出願者数 2,520人 出願倍率 1.06倍(1.09倍)

2 受検状況および入学許可予定者

受検者数 2,515人
入学許可予定者数 2,165人 合格率 86.1%(83.6%)

<特色選抜>

1 出願状況

募集枠 948人
出願者数 3,449人 出願倍率 3.64倍(3.74倍)

2 受検状況および入学許可予定者

受検者数 3,444人
入学許可予定者数 948人 合格率 27.5%(26.8%)

<一般選抜・学力検査>

1 出願状況

出願者数 7,863人(8,492人)
確定出願者数 7,813人(8,430人)
確定出願倍率 全日制 1.11倍(1.13倍) 定時制 0.68倍(0.73倍)
全・定あわせて1.09倍(1.12倍)

2 出願変更状況

出願変更者数 552人 このうち50人は出願辞退者
出願変更率 7.0%(7.9%)

(1) 学科別出願変更率では農業学科が14.5%と最も高かった。(前年度は商業学科の11.7%)

(2) 学校出願を除く普通科の出願変更者数 301人 出願変更率 6.4%(7.1%)

3 受検状況

受検者数 7,792人 受検倍率 1.09倍(1.11倍)
全日制 7,609人 1.10倍(1.13倍) 定時制 183人 0.65倍(0.71倍)

4 入学許可予定者

(1) 学力検査による入学許可予定者数 6,925人 合格率88.9%(88.5%)

(2) 入学許可予定者数が募集定員に満たなかった学校および科 19校23科(9校11科)

<二次選抜>

1 二次選抜募集校・科および募集定員

全日制 14校17科138人 定時制 5校6科104人 全・定あわせて19校23科242人

2 出願状況 出願者数 129人 出願倍率 0.53倍(1.10倍)

3 受検状況 受検者数 125人 受検倍率 0.52倍(1.08倍)

4 入学許可予定者 入学許可予定者数 111人 合格率 88.8%(73.6%)

<入学許可予定者総数および実入学者数>

1 入学許可予定者総数 10,149人

2 実入学者数 10,150人(東日本大震災による転入5人を含む)

3 定員充足率 98.7%(99.7%)

平成23年度

滋賀県立高等学校入学者選抜結果のまとめ

(全日制・定時制・通信制)

滋 賀 県 教 育 委 員 会

[全日制の課程および定時制の課程]

1 募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

この冊子は、平成23年度県立高等学校入学者選抜の結果についてまとめたものである。

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について、中高一貫教育に係る人数は除いている。

(1) 推薦選抜、特色選抜の結果

表1は推薦選抜、特色選抜の出願者数、入学許可予定者数等を示したものである。

推薦選抜実施校は、全日制課程のみの36校43学科(普通科21、専門学科16、総合学科6)であった。特色選抜実施校は、昨年度と同様の12校15学科(普通科12、専門学科3)であった。選抜は、いずれも2月8日に実施した。

推薦選抜出願者の中学校別内訳は、県内の中学校106校中99校(昨年度106校中98校)、特別支援学校中学部13校中2校(昨年度なし)、県外の中学校は26校(昨年度21校)であった。出願者数は、普通科で957人(昨年度1,087人)、農業学科で245人(昨年度263人)、工業学科で330人(昨年度353人)、商業学科で295人(昨年度317人)、家庭学科で115人(昨年度85人)、体育学科で43人(昨年度52人)、美術学科で39人(昨年度52人)、福祉学科で20人(昨年度26人)、国際学科で35人(昨年度30人)、総合学科で441人(昨年度431人)であった。この結果、出願者数合計は、2,520人(昨年度2,696人)となり、出願倍率(募集枠に対する出願者の割合)は、推薦を実施した普通科では1.04倍(昨年度1.09倍)、専門学科で1.07倍(昨年度1.10倍)、総合学科では1.10倍(昨年度1.04倍)となり、実施学科全体では1.06倍(昨年度1.09倍)であった。この結果、2,165人が入学許可予定者となり、合格率は86.1%(昨年度83.6%)であった。

一方、特色選抜出願者の中学校別内訳は県内の中学校106校中104校(昨年度106校中104校)、県外の中学校は12校(昨年度21校)であった。出願者数は、普通科で3,316人(昨年度3,434人)、理数学科で94人(昨年度79人)、音楽学科で39人(昨年度44人)であった。この結果、出願者数合計は3,449人(昨年度3,557人)となり、出願倍率は、特色選抜を実施した普通科では3.73倍(昨年度3.85倍)、専門学科では2.22倍(昨年度2.05倍)となり、実施学科全体では3.64倍(昨年度3.74倍)であった。この結果、948人が入学許可予定者となり、合格率は27.5%(昨年度26.8%)であった。

結果、推薦選抜、特色選抜合わせて3,113人が入学許可予定者となり、合格率は52.2%(昨年度51.3%)であった。

表1 推薦選抜、特色選抜出願者数・入学許可予定者数等

学科	項目	募集定員 A	募集枠		出願者 数 B	受検者 数 B'	出願倍 率 B/A'	許可予定 者数 C	合格率 C/B' (%)	
			%	人数A'						
推 薦 選 抜	普通科	3,600	20~30	922	957	954	1.04	845	88.6	
	専 門 学 科	農業	440	50	220	245	244	1.11	219	89.8
		工業	840	40~50	412	330	330	0.80	309	93.6
		商業	480	50	240	295	294	1.23	231	78.6
		家庭	160	35~40	60	115	115	1.92	51	44.3
		体育	40	75	30	43	43	1.43	30	69.8
		美術	40	75	30	39	39	1.30	30	76.9
		福祉	40	50	20	20	20	1.00	20	100.0
	国際	80	50	40	35	35	0.88	35	100.0	
	小計	2,120		1,052	1,122	1,120	1.07	925	82.6	
総合学科	1,040	30~40	400	441	441	1.10	395	89.6		
合計	6,760		2,374	2,520	2,515	1.06	2,165	86.1		
特 色 選 抜	普通科	3,120	20~30	888	3,316	3,311	3.73	888	26.8	
	専 門 学 科	理数	80	50	40	94	94	2.35	40	42.6
		音楽	40	50	20	39	39	1.95	20	51.3
	小計	120		60	133	133	2.22	60	45.1	
合計	3,240		948	3,449	3,444	3.64	948	27.5		
総合計	10,000		3,322	5,969	5,959	1.80	3,113	52.2		

(2) 一般選抜の結果

3月9日に実施した一般選抜は、学力検査定員7,167人に対し、確定出願者数は7,813人であり、確定出願倍率は1.09倍であった。この結果、6,925人が入学許可予定者となり、合格率は88.9%であった。

3月23日に実施した二次選抜は、二次選抜定員242人に対し、受検者数は125人であった。この結果、111人が入学許可予定者となり、合格率は88.8%であった。

表2 一般選抜出願者数・入学許可予定者数等

項目		年度	平成23年度	平成22年度
学力検査	学力検査定員 A		7,167	7,554
	出願者数		7,863	8,492
	確定出願者数 (倍率)		7,813 (1.09)	8,430 (1.12)
	受検者数 B (倍率)		7,792 (1.09)	# 8,410 (1.11)
	不合格者数		867	968
	入学許可予定者数 C		6,925	7,442
	合格率 C/B(%)		88.9	88.5
二次選抜	二次選抜定員 A-C		242	112
	出願者数		129	123
	受検者数 D (倍率)		125 (0.52)	121 (1.08)
	不合格者数		14	32
	入学許可予定者数 E		111	89
	合格率 E/D(%)		88.8	73.6
入学許可予定者数合計 C+E			7,036	7,531

追検査受検者1人を含む

(3) 入学者選抜の結果

3月16日に発表した県立高等学校全日制および定時制の課程の入学許可予定者数は10,038人であり、その内、推薦選抜による者は2,165人、特色選抜による者は948人、一般選抜による入学許可予定者数は6,925人であった。また、3月25日に発表した二次選抜による入学許可予定者数は111人であり、県立高等学校全日制および定時制の入学許可予定者を合わせて10,149人となった。そのうち、全日制では募集定員10,000人に対して入学許可予定者数9,938人となった。

4月8日における県立高等学校全日制および定時制の課程の実入学者数は10,150人(東日本大震災による転入5人を含む)で、募集定員の98.7%(昨年度99.7%)となった。

表3 入学許可予定者数等

項目		年度	平成23年度			平成22年度
			全日制	定時制	合計	
県内中学校卒業予定者数					13,904	14,582
募集定員 A			10,000	280	10,280	10,760
推薦選抜入学許可予定者数			2,165	—	2,165	2,254
特色選抜入学許可予定者数			948	—	948	952
一般選抜入学許可予定者数			6,749	176	6,925	7,442
二次選抜入学許可予定者数			76	35	111	89
総計	入学許可予定者総数		9,938	211	10,149	10,737
	実入学者数 B				10,150	# 10,732
	定員充足率 B/A(%)				98.7	99.7

県内中学校卒業生数は各年度1月15日教育総務課調査による。

入学者選抜のまとめ発表後の入学辞退のため1人修正済み。

2 学科別の受検者数、入学許可予定者数等について

県立高等学校全日制および定時制の課程を合わせて学科別にみると表4のようになり、実入学者数が募集定員を下回ったのは、普通科をはじめ工業学科、商業学科、総合学科の4学科（昨年度3学科）であった。

表4 学科別の受検者・入学許可予定者数等

項目		学科	普通	農業	工業	商業	家庭	理数	体育	音楽	美術	福祉	国際	総合	
募集定員	A	10,280	6,840	440	960	520	160	80	40	40	40	40	80	1,040	
推薦 選抜	募集枠(人数)	2,374	922	220	412	240	60	—	30	—	30	20	40	400	
	受検者数	B	2,515	954	244	330	294	115	—	43	—	39	20	35	441
	入学許可 予定者数	C	2,165	845	219	309	231	51	—	30	—	30	20	35	395
	合格率	C/B	86.1	88.6	89.8	93.6	78.6	44.3	—	69.8	—	76.9	100	100	89.6
特色 選抜	募集枠(人数)	948	888	—	—	—	—	40	—	20	—	—	—	—	
	受検者数	D	3,444	3,311	—	—	—	—	94	—	39	—	—	—	
	入学許可 予定者数	E	948	888	—	—	—	—	40	—	20	—	—	—	
	合格率	E/D	27.5	26.8	—	—	—	—	42.6	—	51.3	—	—	—	
一般 学力 検査	学力検査定員														
	A-(C+E)	7,167	5,107	221	651	289	109	40	10	20	10	20	45	645	
	確定出願者数	7,813	*4,720	250	599	299	139	**	**	22	**	19	56	672	
	受検者数	F	7,792	*4,708	249	596	297	138	**	**	22	**	19	56	671
	入学許可 予定者数	G	6,925	4,973	221	567	272	109	40	10	20	10	20	45	638
	合格率	G/F	88.9	***	88.8	95.1	91.6	79.0	***	***	90.9	***	105.3	80.4	95.1
選 抜 二次 選 抜	二次選抜定員														
	A-(C+E)-G	242	134	—	84	17	—	—	—	—	—	—	—	7	
	出願者数	129	96	—	22	5	—	—	—	—	—	—	—	6	
	受検者数	H	125	93	—	22	5	—	—	—	—	—	—	5	
	入学許可 予定者数	I	111	80	—	22	5	—	—	—	—	—	—	4	
	合格率	I/H	88.8	86.0	—	100	100	—	—	—	—	—	—	80.0	
総 計	入学許可予定者	10,149	6,786	440	898	508	160	80	40	40	40	40	80	1,037	
	実入学者数	J	10,150	6,789	440	897	507	160	80	40	40	40	40	80	1,037
	過不足	J-A	-130	-51	0	-63	-13	0	0	0	0	0	0	0	-3
	定員充足率		98.7	99.3	100	93.4	97.5	100	100	100	100	100	100	100	99.7
前年度定員充足率		99.7	99.9	100	#98.4	99.0	100	100	100	100	100	100	100	100	

実入学者数には、東日本大震災のために転入した生徒5人を含む

- * 学校出願の数を除いた数。学校出願の数は、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。
- ** 学校出願のため、普通科と専門学科を合わせて別表に示す。
- *** 学校出願のため、学科ごとの合格率は算出できない。
- # 入学者選抜のまとめ発表後の入学辞退のため、比率を修正済み。

別表 学校出願

項目		学科	普通	理数	普通	体育	普通	美術
一般 学力 検査 選 抜	学力検査定員	A-(C+E)	420	40	224	10	150	10
	確定出願者数		585		303		149	
	受検者数	D	584		303		149	
	入学許可 予定者数	E	420	40	224	10	139	10

3 学力検査における出願変更者数について

表5は、学科別の出願者数および出願変更者数等を示したものである。

出願者数7,863人に対し、出願変更者数は552人(昨年度667人)、出願変更率は7.0%(昨年度7.9%)となり、確定出願者数は7,813人であった。

各学科別の出願変更率は、農業学科の14.5%が最も高く(昨年度の最高は商業学科が11.7%)、次に、国際学科の11.1%であった。

表5 学科別の出願変更者数

(昨年度)

学科	項目	学力検査 定員	出願 者数 A	出願変更者数 B (第1志望を 取り下げた数)	出願 変更率 B/A(%)	確定出 願者数 C	出願 変更 者数	出願 変更 率(%)
* 普通		4,313	4,738	301	6.4	4,720	366	7.1
農業		221	256	37	14.5	250	30	11.4
工業		651	593	47	7.9	599	62	9.3
商業		289	293	26	8.9	299	37	11.7
家庭		109	149	14	9.4	139	13	9.3
音楽		20	22	0	0.0	22	2	8.0
福祉		20	15	1	6.7	19	0	0.0
国際		45	45	5	11.1	56	2	5.0
総合		645	695	58	8.3	672	52	7.0
学校 出願	普通・理数	460	582	16	2.7	585	29	4.9
	普通・体育	234	320	32	10.0	303	57	14.5
	普通・美術	160	155	15	9.7	149	17	9.8
合計		7,167	7,863	552	7.0	7,813	667	7.9

* 普通科は学校出願を除く

4 学力検査における面接・作文・実技検査について

点数化する面接を実施した学校は全て全日制の課程で、愛知高等学校、湖南農業高等学校、八日市南高等学校の3校のべ8科(昨年度4校のべ9科)であった。また、受検生の関心・意欲をみるための点数化しない面接を実施した高等学校は、全日制の課程では、甲南高等学校、信楽高等学校、安曇川高等学校の3校のべ6科、定時制の課程では、大津清陵高等学校の昼間・夜間であり、昨年度と同様であった。

実技検査を実施した学校は、草津東高等学校(体育科)、栗東高等学校(美術科)の2校のべ2科であり、昨年度と同様であった。

なお、作文については実施校はなかった。

5 学力検査について

(1) 出題の方針等

平成23年度入学者選抜から、問題用紙のサイズをB4判からA3判にし、2枚重ね二つ折りの状態で配付するようにしたが、それ以外の変更は加えず、従来そのままとした。

各教科の学力検査問題は、平成15年度入学者選抜から全日制と定時制の課程が同一日程での実施となっており、本年度も同一問題で実施した。中学校学習指導要領に示された内容に基づき、単なる知識量のみではなく、学校で学んだ知識を基礎に、表現力や判断力・思考力をみるための設問を多くするなど、工夫を凝らして問題の作成に当たった。

国語では、様々な種類の文章を素材にして、内容を的確に読み取る力、考えを適切に書き表す力、言語事項に関する力をみることをねらいとした。

数学では、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解しているかをみるとともに、事象を数理的に考察する力や見通しをもって数学的に表現、処理する力をみることをねらいとした。なお、中学校の新学習指導要領への移行に伴い、平成23年度は、先行実施分からも出題した。

社会では、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して考察し、公正に判断する力や適切に表現する力をみることをねらいとした。

理科では、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて理解できるかをみることをねらいとした。

英語では、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を理解し、自分の考えを英語で表現するなどの実践的コミュニケーション能力をみることをねらいとした。

(2) 配点等

配点は、各検査教科100点満点を標準とし、5教科で500点満点とした。また、記述式の問題等では、学校の状況に応じて部分点を与えるなど、採点に幅を持たせた。

学力検査実施教科の配点に比重をかける傾斜配点は、従来からの膳所高等学校理数科で数学と理科の配点を120点満点(5教科合計で540点満点)、水口高等学校国際文化科で国語と英語の配点を150点満点(5教科合計で600点満点)で実施したほか、新たに北大津高等学校国際文化科で英語の配点を150点満点(5教科合計で550点満点)とした。

(3) 検査成績

総合得点については、傾斜配点や面接を実施した学校があり、学校ごとに満点値が異なるため、全体としてのまとめは行わなかった。

各検査教科ごとの受検者の平均点は国語57.6点、数学45.0点、社会52.7点、理科46.0点、英語44.3点であった。

[単位制 転・編入学、通信制の課程]

募集定員、出願者数、入学許可予定者数等について

単位制の課程の昼間部で実施した転・編入学については、35人（昨年度52人）の出願者があり、定員40人に対し0.88倍（昨年度1.30倍）の倍率となった。二次選抜では、2人が入学許可予定者となり、合計37人が入学許可予定者となった。

また、通信制の課程については、定員320人のところ一次選抜では、208人の出願者（昨年度234人）に対して、208人（昨年度234人）が入学許可予定者となった。また、二次選抜では、26人（昨年度54人）が入学許可予定者となり、合計234人（昨年度288人）が入学許可予定者となった。

表6 募集定員，志願者数，入学許可予定者数等

年度	項目	一次選抜				辞退者 D	二次選抜		合計	
		募集定員 A	出願者数 B	入学許可 予定者数 C	率 C/A		出願者数	入学許可 予定者数 E	入学許可 予定者数 F=C-D+E	募集定員 との差 F-A
平成 23 年度	転 編 入	40	35	35	0.88	0	2	2	37	-3
	通 信 制	320	208	208	0.65	0	26	26	234	-86
平成 22 年度	転 編 入	40	52	40	1.00	0	—	—	40	0
	通 信 制	320	234	234	0.73	0	54	54	288	-32

国 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（国語）に示された内容に基づき、国語を適切に表現し正確に理解する基礎的な力をみるようにした。

また、様々な種類の文章を素材にして、内容を的確に読み取る力、考えを適切に書き表す力、言語事項に関する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題文章については、「読書についての評論的文章と、詩に関する文学的文章の組み合わせで、非常にバランスよく配置されていた。」「コンパクトな分量の文章の中に、明確な筆者の主張が書かれた良い素材文であった。」「本文のテーマは現代の中高生に考えてほしい内容であり、素材として適切である。」「スローリーディングということテーマとした文章は、現代のスピードを重視する生活のあり方にも目を向けさせる良い内容だった。」などの意見があった。

設問については、「読みやすい中にも読解に必要な力を問うことのできる良問であった。単純に答えを導き出すのではなく、身につけた国語力を活かしたうえで解答に辿りつかせるような設問が多かった。」という意見や、作文に関して「学校生活にかかわる問題であって、しかも条件設定がされているので、答えやすい課題であった。比較をする、という観点において、思考力が試される問いであった。」などの意見があった。

3 解答の分析

□において、漢字の問いについては「主張」の書きの正答率が若干低い以外は良好であった。また、文脈に即して内容を正確に理解する力をみる問いについても、正答率はおおむね良好であった。品詞を見分ける問いについても、昨年度はやや正答率が低かったが、今年度は半数以上の正答率であった。表現技法についての理解と、古典を理解する基礎的な力をみる問いについては、半数近くが正答していた。一方、抽象的な表現で書かれている部分の具体的な意味を、文章の展開に即して読み取ることができるかをみる問いについては、昨年と同様に正答率がやや低く、文章全体の要旨をとらえ、自分でまとめて記述して答える問いの正答率も低かった。このことから、文章に親しむ態度の育成を今後も一層進めるとともに、語と語の関係をとらえながら、内容を丁寧に読み取る力や読み取った内容を簡潔にまとめて表現する力を身につけさせる必要がある。

□の作文では、与えられた材料をもとにして自分の考えをまとめ、適切に表現する力を求めた。受検生にとっては身近なテーマであり、2つの提案を比較しながら評価し、利点を説明することを通して、必要な材料をもとにして自分の考えを適切に書き表すことを求める問いであったので、昨年よりも正答率が大幅に向上した。今後も必要な情報を取り出し、解釈し、身近な生活の中で経験したことや学習したことを活用して、自分の考えをまとめる力のさらなる育成が望まれる。

□において、漢字の問いについては、どの漢字についても良好な正答率であった。また、漢字の知識をもとに書写における行書についての理解をみる問いや、表現の特徴を選ぶ問いについても、おおむね良好な正答率であった。一方、文章の展開を確かめながら主題や要旨をとらえることができるかをみる問いについては、正答率がやや低かった。また、文の中の文の成分の照応を正しく読みとることができるかをみる問いについても正答率が低かった。言葉のきまりに関する基礎的な力や表現の特徴に注意して読む力、書かれていることを正確に読み取り的確に表現する力のさらなる育成が求められる。

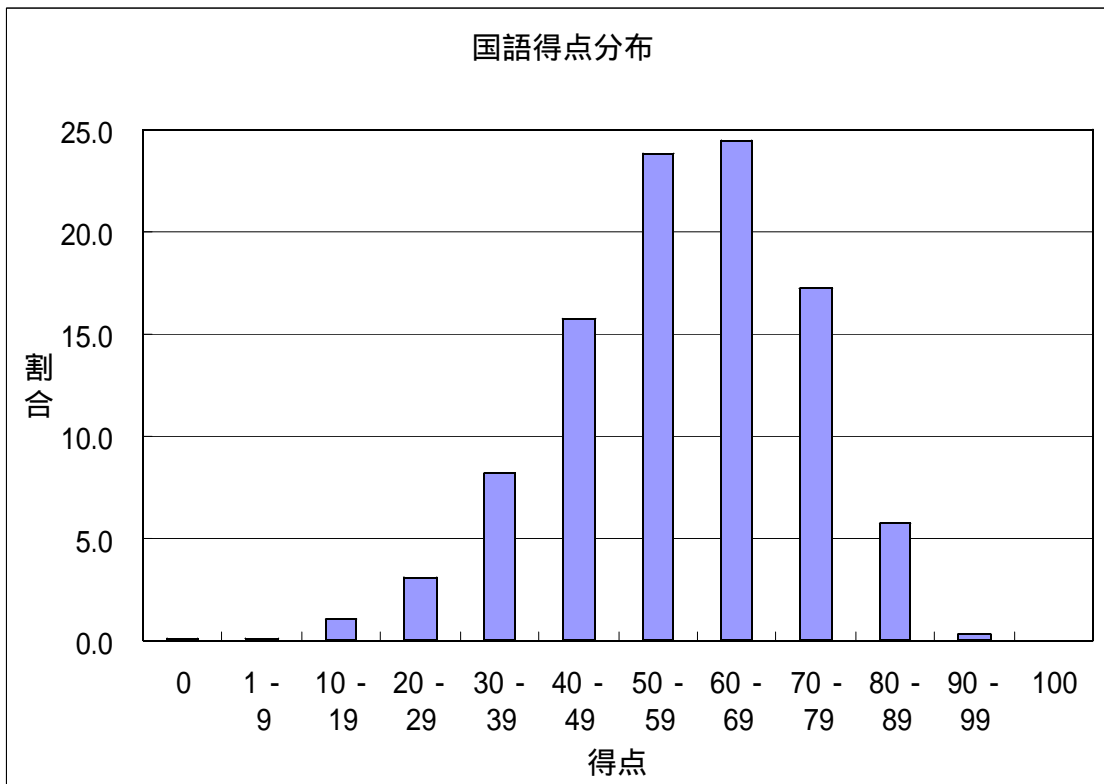
全体として、書かれた内容の大体の意味を理解する力については身につけている。しかし、自分が理解した内容をもとに考えたことを、根拠を明確にして簡潔にまとめ、適切に書き表す力についてはさらなる育成が望まれる。

国 語

問題区分		正答率 (%)
目	1	99.1
		91.6
		78.5
		92.8
		63.8
	2	68.7
	3	47.2
	4	29.3
	5	52.6
	6	10.4
	目	33.0

問題区分		正答率 (%)
目	1	81.0
		98.3
		97.9
		79.2
		98.0
	2	87.0
	3	54.6
	4	4.9
	5	17.6
	6	44.5
	7	57.2

年 度	平均点	標準偏差
平23 (100点満点)	57.6	15.5



数 学

1 出題方針

中学校学習指導要領（数学）および特例により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえながら、数学的な見方や考え方ができるかをみるようにした。

また、数量、図形などに関する基礎的な概念や原理・法則を理解しているかをみるとともに、事象を数理的に考察する力や見通しをもって数学的に表現、処理する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

問題全般については、「基礎的・基本的な問題から、思考力をみる応用問題まで出題されている。」「身近な題材を使いながら、あらゆる分野によく工夫されている。」

「全体的に学習成果、考える力をみるのに適した問題である。」「各問題ともよく考えられており、答えのみでなく、途中の考え方についても採点したくなった。」などの意見が寄せられた。

大問①については「基礎的・基本的な力を問うにふさわしい問題構成であった。」「(4)は身近でありながら、考えもしなかった視点で問題が作られており、好感が持てる。」「(5)は紙テープで正五角形をつくるという具体的な操作から図形をイメージし、日常から数学の要素を見いだす問題であった。」などの意見があった。また、大問②については、「点Pが円周上を動き、2つの円を考えるという素材は工夫されていた。」「(1)から(3)は相似、円の面積、直角三角形の内容などを総合的に問う良問である。」「(4)の問題は難問であるが、いろいろな考え方をを用いることができ、興味深い。」などの意見があった。また、大問③については、「区間によってグラフの方程式が変わり、かつ、それぞれの水そうの水位が関係しながら変化するのが面白い。」「グラフから読み取る方法と、方程式を立式して解く方法があり、ひとつの問題を異なる面から考察することができ、よく考えられている。」などの意見があった。

3 解答の分析

①の数と式の計算の基礎的・基本的な問題については正答率が比較的高く、よく理解できていた。カップめんの容器のふたを素材とした問題は、線対称な図形の性質に基づいて弧を作図する内容であったが、正答率が低かった。基本的な作図では、作図の手順を考えると、図形の対称性をとらえることが重要な役割を果たしていることに目を向けさせることが求められる。また、紙テープの結び目を取り上げ、正五角形の内部にできる合同な三角形を数え上げる問題では、正答率が低く、根拠となる「図形の性質」を明らかにしながら、数理的に考察する力の育成が望まれる。

②の同じ点を中心とする2つの円で囲まれた図形の問題は、相似な図形の性質や三平方の定理等を使って、条件を満たす角の大きさや円の半径の長さなど、図形を多面的に考察したり、数学的に処理する力をみる内容であったが、(1)以外は正答率が低かった。与えられた図形の性質について直観的にとらえたり、見通しをもって論理的に思考し、根拠を明確にして推論の過程を的確に表現する力の育成が求められる。

③の連なる3つの水そうに水を入れる場面を取り上げた問題は、時間と水そうの水の量について、関数関係を見だし、表現し、考察する力をみる内容であったが、(3)、(4)は正答率が低かった。身近な事象について、与えられた条件を的確にとらえ、グラフを読み取り具体的な場面と結びつける力、事象を数理的に考察する力の育成が望まれる。

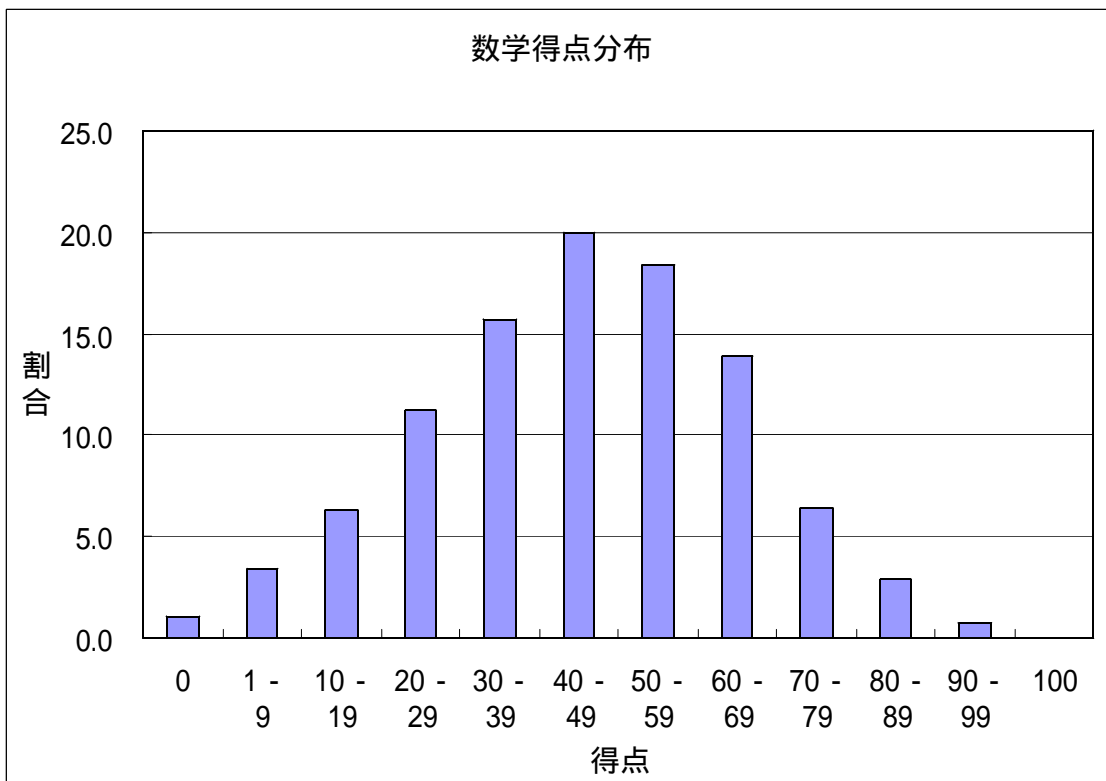
全体として、数や式の計算、方程式、関数、図形の計量等の基礎的・基本的な事項や概念についてはおおむね理解できているといえる。今後は、断片的な理解や知識の習得にとどまることなく、課題解決することを通して数学の各領域の内容を関連付けて活用する力を高めるとともに、言葉、数、式、図、表、グラフを用いて考えたり、説明したりするなどの学習活動を積極的に取り入れながら、数学的な思考力・判断力・表現力を育成することが望まれる。

数 学

問題区分		正答率 (%)	
1	(1)	92.8	
		83.4	
		79.7	
		76.1	
		77.7	
	(2)	50.9	
	(3)	57.2	
	(4)	15.6	
	(5)	ア	26.3
		イ	27.3
		50.1	

問題区分		正答率 (%)
2	(1)	49.7
	(2)	18.5
	(3)	21.7
	(4)	0.1
3	(1)	56.1
	(2)	41.4
	(3)	7.8
	(4)	5.0

年 度	平 均 点	標 準 偏 差
平23 (100点満点)	45.0	19.7



社 会

1 出題方針

中学校学習指導要領（社会）に示された内容に基づき、地理、歴史、公民の三分野について、基礎的・基本的事項の理解をみるとともに、多面的・多角的な見方や考え方ができるかをみるようにした。

また、地理的事象や歴史的事象、社会的事象について、地図やグラフ、図表などの各種の資料を活用して考察し、公正に判断する力や適切に表現する力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

「地理、歴史、公民ともバランスがとれ、基礎的・基本的事項の理解をみるとともに、さまざまな資料を活用して、思考力、判断力を求める問題であった。」「地理的分野においては、二種類の略地図を組み合わせて判断させる問題など、グラフなどの資料を用いて考察させる問題であった。」「歴史的分野は、古代から現代までの代表的な建築物に関わる歴史的事象について、資料の読解力に加え、因果関係を正しく理解したうえでないと答えられない良問であった。」「公民的分野では、日頃の学習の成果を問う問題とともに、地産地消については、自分の身近な事象から、経済、環境に視野を広げる良問であった。」などの意見があった。

3 解答の分析

①は、略地図や資料をもとに、時差や大洋の分布などの基本的事項の理解をみるとともに、資料を正しく読み取り、世界の国々の貿易などの特色や、日本の各地方の農業の特色などについて考察し、正しく判断する力や適切に表現する力をみる問題であった。大洋の分布や季節風、農産物についての問題では正答率が60%以上であり、基礎的・基本的な力はおおむね身につけているといえる。しかし、各地方の面積と人口からその特徴を読み取る問題や日本の農業の特色を考えさせる問題では、正答率が低く、今後は資料を適切に読み取る力を育てていく必要がある。

②は、わが国の歴史的建造物について、書院造、古代・中世の文化、日本の産業革命の特徴などを取りあげて、歴史的事象の特徴を的確にとらえる力や適切に表現する力をみる問題であった。古代・中世の時代の特色や文化についての問題からは、基礎的・基本的な事項の理解はほぼできているといえる。しかし、日本の産業について説明する問題では正答率が低く、資料を読み取り、適切に表現する力を育てていく必要がある。

③は、政治や裁判のしくみ、貿易についての基礎的・基本的事項の理解をみるとともに、滋賀県の地産地消に関する資料をもとに考察する力をみる問題であった。国と地方の政治のしくみに関する問題や裁判の種類に関する問題の正答率が高く、公民的分野における基礎的・基本的事項の理解がおおむねできていることがうかがえる。しかし、地産地消について考えさせる問題では正答率が低く、今後は、地域の課題について日頃から関心を持ち、自らの生活との関連を考えさせる指導が望まれる。

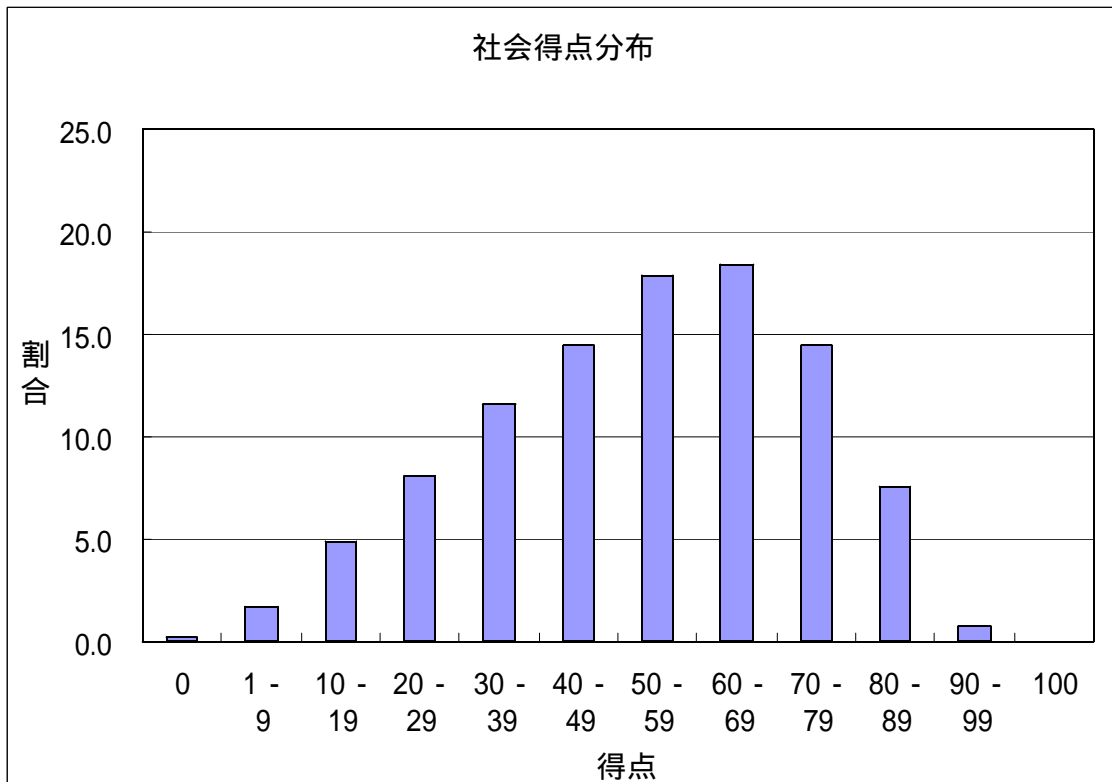
全体的に、地理、歴史、公民の各分野における基礎的・基本的事項についてはおおむね理解できている。しかし、資料からさまざまな情報を読み取り、適切に表現する力を身につけさせることが必要であり、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、社会的事象を多面的・多角的に思考・判断して、表現する力を育成する指導が望まれる。

社 会

問題区分			正答率 (%)
1	1	(1)	40.2
		(2)	34.9
		(3)	57.3
		(4)	大洋名
	記号		76.7
	2	(1)	57.5
		(2)	78.0
	3	(1)	73.8
		(2)	68.0
		(3)	6.6
(4)		2.6	
2	1	(1)	43.8
		(2)	68.2
		(3)	67.7
		(4)	47.0
		(5)	32.7
		(6)	22.1

問題区分			正答率 (%)	
2	2	(1)	18.1	
		(2)	4.4	
	3	A	17.2	
		B	12.3	
3	1	(1)	54.2	
		(2)	67.4	
	2	(1)	68.2	
		(2)	31.1	
	3	(1)		34.6
				60.9
		(2)	54.5	
	4		17.0	

年 度	平均点	標準偏差
平23(100点満点)	52.7	20.4



理 科

1 出題方針

中学校学習指導要領（理科）および特例により定められた内容に基づき、基礎的・基本的事項を踏まえながら、自然の事物・現象について科学的な見方や考え方ができるかをみるようにした。

また、身のまわりの事物・現象を調べる観察、実験を通して、自然のしくみやはたらきについて理解できるかをみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

「身近な素材を扱った観察、実験にもとづき、科学的な見方や考え方ができるかを問う工夫が見られた。」「実験データを読み取り、分析した結果を活用し、科学的に探究する力を問うものであった。」「物理、化学、生物、地学の各分野からバランスよく出題されており、各問とも考察したことを記述し、自分の考えを表現する力を問う工夫がなされていた。」などの意見があった。

3 解答の分析

①では、鉄と硫黄の化合によって生成する物質や、発生した気体のにおいを調べる方法など、化学変化に関する基本的な事項や化学実験の基礎的な技能を問う問題については比較的正答率が高い。一方、化学変化における物質の量的関係を二つの実験の結果を組み合わせることで考察する問題では正答率が低く、今後は複数の実験結果を関連付けて分析し、活用していく力の育成が求められる。

②では、植物の花のつくりについて問う問題や、葉緑体でデンプンがつくられることについて問う問題では正答率が高く、植物の体のつくりとはたらきについての基礎的な事項はおおむね理解できているといえる。一方、観察や実験の結果を消化酵素のはたらきと関連付けて考察する問題では比較的正答率が低く、今後さらに基礎的・基本的な知識を活用して考察し、自分の考えを表現する力の育成が望まれる。

③では、北の夜空に見える恒星が、時間とともに北極星を中心に回転して見えることや、恒星の高度が変化することについて問う問題では正答率が高く、恒星の見かけの動きに関する基礎的な事項はおおむね理解できているといえる。一方、恒星の日周運動を地球の自転と関連付けてとらえる問題では正答率が低く、今後さらに観測結果や調べたデータをもとに考察する力の育成が求められる。

④では、音が空气中を伝わることや、弦を張る強さと弦の振動の仕方との関係を問う問題については比較的正答率が高い。このことから、音についての基礎的な事項を理解することは、おおむね達成できていると考えられる。一方、実験結果のグラフから振動数を求めることや、音の振幅を力学的エネルギーと関連付けて考察し説明することなどの問題については正答率が低く、今後は実験結果を分析し、的確に表現する力の育成が求められる。

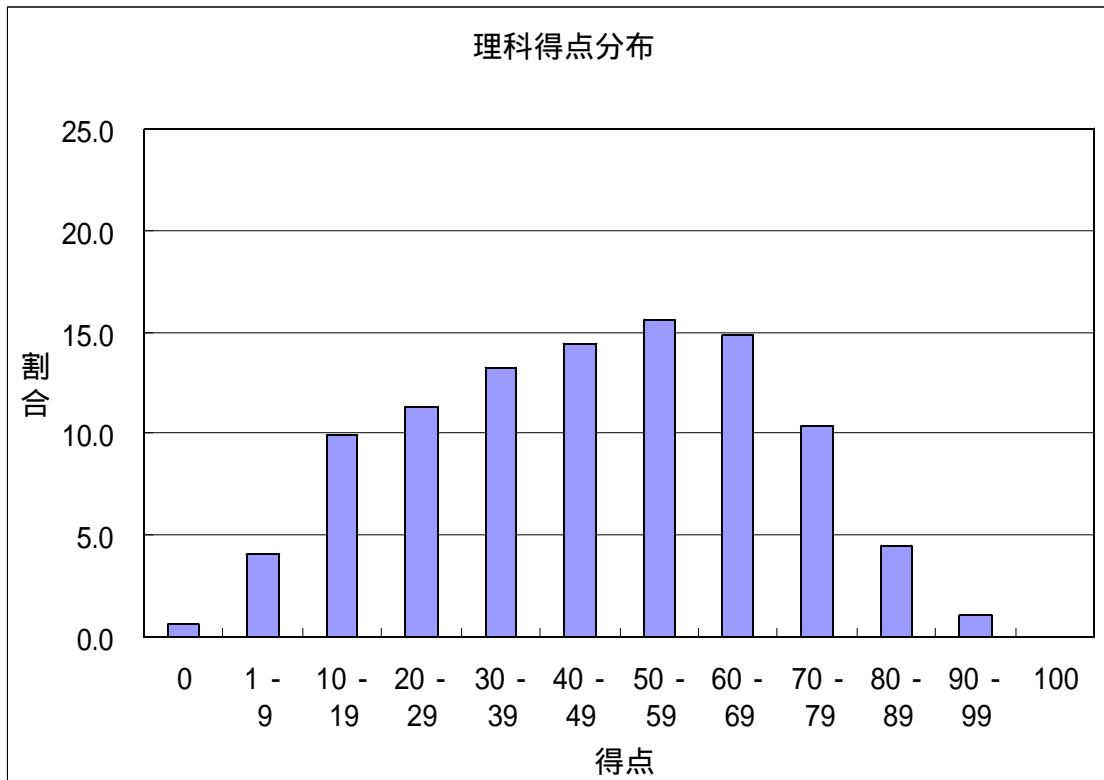
全体として、個々の基礎的・基本的な事柄や概念についてはおおむね理解できているといえる。しかし、事物・現象を科学的に考察し認識する力、および考察や認識を的確に表現する力はやや弱いと考えられる。今後も自然や日常生活に見られる事物・現象に進んで関わり、基礎的・基本的な知識をもとに科学的に探究し、考察したことを的確に表現する活動を通して、科学的な思考力や判断力、表現力を育成することが求められる。

理 科

問題区分		正答率 (%)	
1	1	69.0	
	2	22.5	
	3	方法	79.6
		化学式	27.5
	4	20.8	
	5	7.8	
2	1	74.9	
	2	53.9	
	3	51.9	
	4	48.1	
	5	18.5	

問題区分		正答率 (%)	
3	1	39.3	
	2	60.8	
	3	55.6	
	4	時間	36.6
		記号	42.3
	5	12.7	
4	1	64.3	
	2	23.7	
	3	27.4	
	4	57.0	
	5	5.9	

年 度	平均点	標準偏差
平23(100点満点)	46.0	22.1



英 語

1 出題方針

中学校学習指導要領（外国語）に示された内容に基づき、英語を理解し、英語で表現する基礎的な力をみるようにした。

また、初歩的な英語を聞くことや読むことを通して、話し手や書き手の意向を理解し、自分の考えを英語で表現するなどの実践的コミュニケーション能力をみるようにした。

2 問題に対する高等学校からの主な意見

「『聞く、話す、読む、書く』の4技能の統合を意識して十分に吟味された出題であった。」「実際に中学校で起こりえるような場面設定で出題され、コミュニケーション活動を意識した問題構成となっていた。また、中学校での学習内容を踏まえた良問であった。」「英文の前後の流れを読みながら解答を導く問題が多く、単なる知識理解を問うのではない問題となっていた。」「問題量も適当であった。」などの意見があった。

3 解答の分析

①の聞き取り問題では、絵を見て答えを選ぶ問題の正答率や、初歩的な会話の流れや内容を聞き取る問題の正答率が高く、中学校の授業で英語を「聞く・話す」活動に積極的に取り組ませている成果が現れている。しかし、具体的な内容を聞き取ったり、前後の流れから内容を理解したりする問題では正答率が低かった。日ごろから、相手が何を伝えようとしているのかを注意しながら聞き、話し手の考えについての中心となる部分を理解するような活動を一層充実させることが望まれる。

②は、留学生と生徒のスピーチを題材にして、話し手が伝えようとするを読み取る力や場面や状況に応じて英語で適切に表現する力を見る問題である。英文の基本的な構造を理解する問題では、比較的高い正答率であったが、本文の内容理解が必要な問題については正答率は低かった。日ごろから、相手との関係などを踏まえ、自分の意向を明確にしたうえで適切な表現を用いて書く力を育成することが望まれる。

③は、生徒たちと先生の会話を題材に、英語の理解力や表現力などを総合的にみる問題である。日常会話における適切な表現を選択肢から選ぶ問題や、会話の流れを把握しているかをみる問題では、比較的高い正答率であったが、場面や状況に応じて適切に表現する力をみる問題の正答率は低かった。まとまりのある英文を読み、その内容を的確に読み取ったり、内容の事実関係や順序などを整理したりする活動をより一層充実させることが望まれる。また、それにとどまらず、自分の考えや気持ちを明確にしたうえで、適切な表現を用いて応じたり書いたりする活動を取り入れることも重要である。

全体的には、初歩的な英語を聞いて話し手の意向を理解する力や、英文を読んで大まかな流れをつかむ力はあるが、大切な部分を聞き取る力や的確に読み取る力、相手との関係や相手の立場を踏まえ、自分の意向を明確にしたうえで適切に表現する力は十分に定着しているとは言えない。コミュニケーション能力の基礎を養う観点から、英文の正確な語順や構造を意識させるとともに、英語で表現することへの関心・意欲を高める工夫をする必要がある。さらに、他の生徒が聞いたり読んだりしたことについて、その内容を理解するだけでなく、自分なりの感想や意見などをもち、それをもとにコミュニケーションを図るような指導を一層充実させることが望まれる。

英 語

問題区分		正答率 (%)		
1	《その1》	1	68.5	
		2	75.8	
		3	33.4	
	《その2》	(A)	1	77.7
			2	24.5
		(B)	1	71.6
			2	72.5
	《その3》	1	26.9	
		2	26.8	
2	1		39.3	
			72.3	
	2	40.5		
	3	33.8		
	4	36.0		
	5	56.2		

問題区分		正答率 (%)	
2	6	1	27.5
		2	38.9
		3	23.7
3	1		64.7
			58.3
	2	35.6	
	3	41.1	
	4	52.6	
	5	7.8	
	6	38.8	
	7	40.8	
	8		21.4
			9.2

年 度	平均 点	標準 偏差
平23 (100点満点)	44.3	22.7

